

# ANJIN

vol.31

2023 Summer

季刊



<http://www.tokyobay-pilot.jp/>

ANJIN 第31号 2023年7月1日発行  
発行所／東京湾水先区水先人会  
編集・発行／広報チーム  
〒231-0023 横浜市中区山下町1番2  
パイロットビル  
TEL 045-650-3180

記載内容に係わる個人情報や会報内容について、当会に無断での転載・転用を禁止する。



◆ 絵本『うみのパイロットさん』と  
マルクンカレー  
◆ 「ヨーガ」とは  
◆ 国立競技場を走って来ました!!



# 目次 Contents

Vol.31 ~ 2023 Summer ~

絵本『うみのパイロットさん』とマルクンカレー	3-5
「ヨーガ」とは	6-9
国立競技場を走って来ました!!	10-11
私のキャリア	12
PEOPLE	13
ANJIN私のおすすめ／期待の星	14
人事短信	15

表紙／海図コピー（海上保安庁・海図 W1065「東京港東航路」から転載）

## ANJIN【あん-じん・按針】とは？

磁石によって船の航路を決めること。また、その人。水先案内。按針手。

《補説》水先案内の意の「あんじ(行師)」の変化したものか。

(「デジタル大辞泉」から転載)

日本水先人会連合会

一般財団法人海技振興センター

が作った

絵本

# 「うみのパイロットさん」 と マルクンカレー

二級水先人 松家 辰徳  
(まついえ たつり)



皆さんは水先人をテーマとした絵本『うみのパイロットさん』とこの絵本で登場するキャラクターをあしらったレトルトカレーがあるのはご存知でしょうか。

日本水先人会連合会や一般財団法人海技振興センター（以下、海技振興センター）では水先人の仕事を小さなお子さんをはじめ、多くの方に知ってもらうため、さまざまなPR活動を行なっております。このPRの一環として、絵本とカレーが制作されました。

今回、絵本とカレーの制作に携った海技振興センター千葉さんには、絵本完成までの道のりやマルクンカレーの裏話を伺うことができましたのでご紹介させていただきます。

## 制作までの道のり

▼ うみのパイロットさん  
かもつせんマルクンのぼうけん



千葉さんは、前職で海のこと、船のこと、船員さんのことを、子どもから大人までの層へ広く伝え、それらが認知されるようご尽力されました。そんな中で、とりわけ良き原体験は、将来の進路や職業選択に大きな影響を与えることから、子ども向けの絵本やストーリーを作りたいと思い、かねてから原案を温めていました。昨今のコロナ感染症拡大の影響により、毎年港湾都市で開催されていた「海フェスタ」をはじめとする各種イベントが軒並み中止となりました。そのようなPR活動も制限された状況下で、絵本の制作が決定しました。

制作には時間も限られ、さまざまな困難もあったようです。しかし、水先人会連合会の役員の方々の協力と、千葉さんの絵本にける熱い思いもあり無事完成し、デジタル絵本として Web を使ったイベント「C to Sea 海ココチャンネル」で公開されました。



◀ うみのパイロットさん  
トラボじまのなかまたち

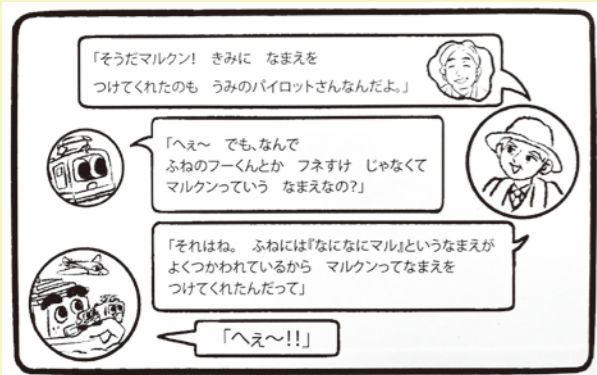


▲ うみのパイロットさん  
カナルじまからのおてがみ

## 絵本『うみのパイロットさん』

『うみのパイロットさん』の内容は小学生までの子どもを対象とした、水先業務を紹介したものです。主人公の船「マルクン」が「パイロットさん」の助けを借りて、広い海を渡り遠くの島までの航海に挑戦します。その様子を通して、水先人の仕事(内容、重要性等)を親しみやすく紹介しています。日本水先人会連合会の監修ということもあって、専門的な描写や国際信号旗の紹介もあり、水先人が見ても楽しめる作りとなっています。是非一度読んでいただきたい作品となっております。ちなみに絵本の中の主人公である「マルクン」の名付けの親は、日本水先人会連合会会長の西本さんだそうです。

1作目の『うみのパイロットさん』が大変好評であったため、2作目『うみのパイロットさん トラボじまのなかまたち』に続き3作目『うみのパイロットさん カナルじまからのおたより』が公開されると共に書籍化されました。これらの作品は国立国会図書館、水先区のある図書館、海事関係図書館・博物館だけでなく、日本船主協会を通してロンドン、パナマ、シンガポールといった海外の日本人学校にも寄贈され、You Tube 上の水先人会連合会公式チャンネルでも閲覧することができます。



▲ 名前「マルクン」の由来

## 『うみのパイロットさんとマルクンカレー』



うみのパイロットさんとマルクンカレー ▲

マルクンカレーは、大好評であった『うみのパイロットさん』シリーズに登場する主人公「マルクン」をはじめとしたキャラクターがパッケージに描かれたレトルトカレーです。海事系のイベントにおいて子どもたちに配布するグッズ等を検討したところ、子どもたちの好物であるカレーが採用されたそうです。

千葉さんが海技教育機構(JMETS)に在職していた際に、横須賀海軍カレーに対抗して、練習船の味を忠実に再現した「JMETS 練習船カレー」も元ネタとなっています。

味へのこだわりは凄まじく、既存のカレーではなく、関係者の意見を踏まえて作ったオリジナルブレンド(大阪のベル工業(株)が製造元)といったこだわりようです。何度か試作品ができ、試食を重ねて、「子ども向けにしては辛い」「いや丁度いい」「色が濃い方がいい」「野菜を多く」などなど、たくさんの意見を踏まえて、作られた傑作となっています。苦勞した甲斐があって「おいしくて野菜嫌いの子どもが沢山の野菜を食べることができました」と好評をいただいているようです。

実際に筆者の私もいただきました。大変おいしく、製作陣のただならぬこだわりを感じた逸品でした。残念ながら、絵本もマルクンカレーも市販されず広報グッズという扱いになりますので、入手したい方は、海事系のイベントに顔を出していただきたいと思います。

## おわりに

今回、海技振興センターの千葉さんには、当記事のANJINへの掲載を快諾していただいただけでなく、当水先人会に『うみのパイロットさん』関連グッズを寄贈いただきました。絵本は当会4階のANJIN 文庫の蔵書に加えておりますので是非とも一読いただければと思います。

今回取材に応じてくれた千葉さん、大変ありがとうございました。

関連グッズ「うみのパイロットさんノート」▶



※1…「海フェスタ」は、「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識するための行事として、毎年夏に開催されています。

※2…「C to Sea 海ココチャンネル」は「C to Sea プロジェクト」の広報 You Tube チャンネルです。「C to Sea プロジェクト」では国民(Citizen)、子どもたち(Children)、文化(Culture)など沢山の「C」を「Sea」につなげ、国民全体に対して、海や船に触れる機会の創出と、海事・海洋に関する情報発信を行なっています。



# 「ヨーガ」とは

総務部 青木 香緒里  
(あおき かおり)



ガンジス川にて

私の朝は、ネティ(鼻うがい)から始まる。  
もう10年以上になる朝の習慣だ。  
これは、初めての渡印で教わったことだ。

インドの朝は、浄化(身を清める)することから始まり、サーダナ(修行・鍛錬)にうつる。  
身を清めるのは、ネティ(鼻うがい)と水シャワー。  
“水”とは、インドの給湯器があまりに旧式で、お湯は数分で水に変わってしまうからだ。日中はタンクトップ1枚で汗だくのような季節でも、夕方には薄いダウンを羽織るぐらい冷え込むので、朝の水シャワーは「修行」に他ならない。

私レベルの浄化はネティの鼻うがいだけだが、もっと上のレベルになると、胃(ダウティ)や腸(バスティ)の洗浄まであるわけで…凄い世界だ。

一度だけ、水の胃洗浄を見せてもらったが、できる気がしない。

また、包帯のような布を口から飲み込んでから引っ張り出す洗浄法は、トライする姿勢を取ってみたものの、やはりできなかった。



インド風景▶▶



アシュラム<sup>※2</sup>の食事(手で食べます)▼



スワミジ▶▶



※1: スワミジ

スワミジとは「尊敬する導師」と訳されたりするが、仏教でいうところの僧侶、それも階級がかなり上の僧侶となり、オレンジ色の服を着ている。このオレンジ色の服はスワミジだけ着ることが許されている神聖な服で、そこまで達していない人は白色の服を着ている。

※2: アシュラム

アシュラムとは、僧院。ヨガを学ぶ学校、あるいは施設。

日本でヨーガというと、美しい女性インストラクターが優雅にポーズをとっているイメージがあるが、本来、ヨーガとは「生き方」で、日本でイメージされているものは、ヨーガのほんの一部に過ぎない。

それでは、そもそも「ヨーガ」とは、一体何なのか。

私は、ヴェーダーンタと呼ばれるヨーガ哲学を学ぶために、スワミジ<sup>※1</sup>のもとに通い詰めたことがある。

そこで、ヨーガとは「ヨーガという『行い』を道具として、モークシャ(自由)を得ること」と学んだ。モークシャは、仏教に当てはめると「悟りを得る」ということになるだろうか。

インドでは、釈迦(ブッダ)もイエス・キリストもヨーガを行っていたと伝えられている。

一般的に言われる「心の健康」や「身体の健康」は、さまざまな文明病に立ち向かうためのツール(道具)であるヨーガを実践することによって得られる「副産物」のようなもので、それらを目指すのは本来の目的ではない。



## 八支則

1. ヤマ：禁戒…してはならないこと(非暴力、盗みをしない、嘘をつかないなど)
2. ニヤマ：勸戒…進んで行くこと(清潔、満足、自制、学習など)
3. アーサナ：身体を整える、鍛える
4. プラーナヤマ：呼吸法
5. プラティヤハラー：感覚の制御、感情のコントロール
6. ダーラナ：今に集中
7. ディヤーナ：精神統一
8. サマーディ：涅槃<sup>ねはん</sup>の境地、三昧、自由を得る

※3: 涅槃(ねはん)

全ての煩惱(人間の肉体や心の欲、怒り、執着)の火が消滅した、安らぎの境地のこと。心の迷いがなくなった状態のこと。



◀◀ 授業風景



ルームメイトと▲

ヨーガの実践方法として、『八支則』という8つの段階・行法がある。

この第3段階に「アーサナ」が出てくる。この部分がクローズアップされて世界中に広まり、「ヨーガ=アーサナ」となっているのが現代におけるヨーガなのだろう。

第5段階以降は、瞑想になる。瞑想も今とても人気が高い。世界のエリート達が瞑想を行っていることもよくメディアに取り上げられる。「マインドフルネス」という言葉も、今のトレンドだ。

ただ座って目を閉じているだけ…といえばそれまでだが、これがまた奥が深く、アスリート並みの身体が必要なのではないかと思うほどである。長時間の瞑想を経験すると、その過酷さに愕然とする。私の長時間は60分程度で、これでは到底サマーディに行きつくはずがない。しかし、行きつくかどうかではなく、それに向き合っていること自体に意味があり、それを行うことでヨーガ実践者となるのだろう。

第3段階の「アーサナ」と第4段階の「プラーナヤマ」は、長時間の瞑想を行うための身体を作る、要は、瞑想の準備という位置付けだ。

いろいろ「ウンチク」を並べてはみたが、私はこの「アーサナ」が好きだ。

最後に私がハマった「アーサナ」について、少し書きたいと思う。

今や世界中にヨーガの流派がどんどん生まれ、溢れている。カリスマ性のある人が、好きな名前を付けて広めれば、それが新しい流派として認められることになる。

そんな中、私はインドの伝統的3大ヨーガの一つ「アシュタンガ・ヨーガ」にハマった。

パワー系の流派で男性の練習生が多いことで知られている。アクロバティックなイメージが強く、ちゃんとした先生につかないと、怪我にもつながる。私もよく怪我をした。怪我の度合いに差はあるが、たぶん…全身の各部を一度は痛めたような気がする。

「アシュタンガ・ヨーガ」は、プライマリー(1stシリーズ)、2ndシリーズ、3rdシリーズ、4thシリーズと4段階のシリーズから成り、先生から一つずつポーズを貰って先へと進むシステムで、たぶん、他にはこのようなスタイルの流派は存在しない。

逆立ちをしたり、両足を首にひっかけたり、ブリッジで足首を持ったり…と絶対にできる日は来ないと思うアーサナ(ポーズ)も、向き合っているうちにできるようになるもので、それが快感に繋がる。一生3rdシリーズに進むことはないと思っていたが、3rdシリーズの初めのアーサナを先生から伝授された時の感動は、今も忘れない。

とはいえ、そろそろ身体的にきつくなってきたことも確かである。

1回の練習は2時間半近くを要するのも過酷だ。

今、師事している先生はアシュタンガ・ヨーガの正式指導者の男性である。この先生に師事してからは怪我もなく、やはり先生選びは最も大切なことだと痛感する。いい先生に出会えたことはとてもラッキーなことなので、もう少し、老体に鞭打って(?)頑張ってみようかと思っている。

アシュタンガ・ヨーガ、みなさんもやってみませんか? マイソールスタイル<sup>※4</sup>クラスの練習にハマると、痩せますよ!(笑)

※4: マイソールスタイルクラス

マイソールとはインドの南にある地名。その街でアシュタンガ・ヨーガの師、故パタビジョイス氏が指導していたクラスのスタイルをマイソールと呼んでいる。ポーズの順番が決まっており、指導者は練習生それぞれの状態に見合ったポーズを順番に教え、練習生は各自が教わったところまで練習する。全く初めての初心者から、難易度の高いポーズを行う上級者までが、同じ空間で練習している。



▲ アーサナ

▼ 儀式



▶ 砂絵



▲ 手書き作業





東京レガシー  
ハーフマラソン  
[21.0975km]

# 完走記

一級水先人 西 鍵 徹  
(にしかぎ とおる)

走つて来ました!!  
国立競技場を



▲ 国立競技場

2022年10月16日、東京レガシーハーフマラソンに参加してきました。スタート・フィニッシュは国立競技場で、新宿御苑、東京ドーム、皇居等を通過するコースです。

このレースは2020東京オリンピック・パラリンピックを未来に引き継ぐ大会として創設されたもので、今後毎年開催されるとのことです。参加人数は招待選手・エリート選手等を含め、約15,000名となっており、なんと競争率約10倍をかいくぐっての出場となりました。「こんなところで『運』を使い果たしてどないすんねん」って思われるかもしれませんが、もう人生も終盤、「ここで『運』使わへんかったらもう使うとこあれへん」と思うようにしています。因みに参加費用はPCR検査費を含め20,700円でした。通常ハーフは4,000円程度なので5回分です。

さて、このレース、60代後半になって初めての公式レースとなることから、目標タイムを少しゆっくり(65歳を過ぎてから急激に体力の低下を感じています。介護保険証をもらったせいかも…)の1時間40分に設定しました。平均ペースは1km 4分44秒ですが、競技場は高台にあるため、後半かなり厳しい登り坂を控えており、前半は4分30秒を切る勢いで走る必要がありました。



START前 ▲

スターターである阿部一二三柔道金メダリストによる号砲で、午前8時5分にスタートしました。スタートラインから時計回りにトラックを4分の1周してから外に出ていくのですが、私はバックスタンド前くらいに並んでいたため、スタートラインまで号砲から約1分半かかりました。

今回、このレースの一般的知名度が低かったこと、東京マラソンと違って銀座や浅草がコースにないこと、さらにスタート時間が早いことなどから沿道の観衆が少なく、声援による背中の後押しはありませんでした。しかし、早朝に車のいない都心の広い道路を信号など気にすることなく走り抜けていくのは心が洗われるようで、ほんまに気持ちのええランをすることができました。



START直後 ▼

FINISH直前 ▶



激走中 ▲

フィニッシュは競技場に入ってから反時計回りに4分の3周してゴールラインとなります。スタート時のような混雑もなかったため、競技場の感触を噛みしめながら、メダリストのように華麗なランナーを装いつつゴールしました。なお、せっかくなので、ゴール直前の様子を走りながらカメラに収めました。「そんな余裕があるんやったらもっとしっかり走ったらんかい」と言われそうですが…。

結果は、1時間38分35秒(ネットタイム:1時間37分08秒)で目標達成です。

27歳のときに皇居を走り始め、2022年がちょうど40年、この間ずっとスピードを追求してきました。年齢による減速は仕方ないですが、これからもランナー現役でいる限りタイムへのこだわりは継続していくつもりです。

完走メダル ▼

▼ FINISH後







# 私のキャリア My Career

vol.19

オペレーション部 係長  
森 裕康  
(もり ひろやす)

## 学術船と鬼上司の思い出

私の前職は学術研究船「白鳳丸」の電子士官<sup>※1</sup>です。部署は筆頭(電子長)と次席(電子士)2名からなる少数編成であり、船全体の通信・事務・観測装置の保守運用を所掌とします。

電子士時代、特に印象に残っているのは私に仕事のイロハを叩き込んだ最初の上司である牧電子長の事です。

彼は元潜水艇「しんかい 6500」の副操縦士であり、一時的に本船へ出向のような形で来ていました。

仕事に対する姿勢は非常に厳しく、仕事の考え方・メモの取り方・工具の持ち方に至るまで、ありとあらゆる事を指導されました。よく眉間に皺を寄せていて、本人曰く、「これでも丸くなった」との事ですが、大学を出たばかりの若造にとっては、はっきり言って鬼でした。

入社半年が経ち、船乗り生活にも慣れてきた頃、電子長より、「他船の観測部のノウハウを学ぶ為、研究船「みらい」に2ヵ月ほど乗船し研修せよ」との命令が下りました。研修担当やカリキュラムがあるわけでもなく、言われた事は「見て学べ」のみです。

知り合い一人いない環境に放り込まれ、不安と心細さしかありませんでしたが、何の成果も無く戻る訳にもいきません。

具体的に何をすれば良いかもわからず、とにかく観測チームに24時間張り付く事から始めました。結果、作業内容を理解する上で前提となる海洋観測の知識が全く足りていないという事実と直面しました。

観測員を質問攻めにするにも限界があり、頭を悩ませました。悩んだ末、観測整備作業・機器の配置・各種資料の書き方など、目につくもの全てを記録することにしました。理解の及ばない部分については後々活用できる事を期待して、メモ・写真・録音を利用して複合的に残すことに専念しました。

研修を終えるまでに身についた事は多くはありませんでしたが、蓄積した記録は数年後、新しい機器の運用体制を作る際、観測野帳や手順書を作成する際に大いに役に立ちました。

そして、現在のオペレーション業務においても、それらノウハウは業務改善のレポートや種々の資料作成に活用され、自身の中に大きな財産として残っています。

当時は牧電子長をとんでもないスパルタ上司だと思ったのですが、今では機会を与え知識技術を叩き込んでくれた事に感謝し、船を降りた後も偶に酒を酌み交わしています。

※1 約4,000トンの大型研究船で、各種の研究室、ウィンチ等観測設備があり、近海・遠洋を問わず、極海を含めた世界の海を舞台として、海洋生物・地球物理・化学・地震などの調査研究を行っている。国立研究開発法人・海洋研究開発機構(UAMSTEC)に所属している。

※2 船全体の通信業務(無線機器の保守及び運用・ネットワーク管理)・事務業務(入出港手続・船員の雇入止・出納管理)・観測業務(観測機器の保守及び運用)等を担当する士官。



▲無線室にて当直中の筆者



▲白鳳丸(塩釜港にて)

「みらい」研修乗船中の観測作業 ▼



# PEOPLE

広報委員の若畑です。  
今回は水先人送迎において大変お世話になっております  
株式会社ポートサービスをご紹介します。

水先人会と水先人に日々係わる人々



私たちポートサービスは横浜港を起点に通船業の実績と歴史を積み重ね、今年で創業69年を迎えました。東京湾全域をカバーする“緑の下の力持ち”として、大きな使命感を持って日々邁進しております。

運航部は配船オペレーションを通し、外航船・内航船が東京湾各所へ入出港するためのサポートをしています。入港の補佐役であるパイロット(水先案内人)や船員を船へ送迎する通船ボートや係留作業を行う作業船、港作業の見張り役である警戒船などを手配します。

大さん橋営業所はフレッシュな顔ぶれが多く、甲谷所長の明るい人柄も相まって、いつも和気あいあいとした雰囲気です。



《上段右から》  
配船オペレーション課 所長 甲谷 敬 … 好きなお酒は生グレープフルーツサワー。握力が弱くて果汁を絞りに切れないのが残念です。おしゃれなメガネがチャームポイントです。  
(かぶとや たかし)

交通船部 PILOTチーム 増田 伊央汰 … 船の安全運航を手助けできるようにこれからも精進していきます！  
(ますだ いおた)

配船オペレーション課 石川 真人 … 航海、運航の安全を祈念しております。  
(いしかわ まさと)

《下段右から》  
交通船部 営業課 小峰 麻衣子 … PSに入社して最初に思ったことは『海を眺められる職場最高！』でした。趣味は旅行ですが、コロナの影響で行けていないので今年こそは…。  
(こみね まいこ)

【新人】  
交通船部 PILOTチーム 高岡 寿光 … 最近ランニングを始めました。  
(たかおか としみつ)



交通船部 運航課 猪狩 友輝 … タンカー船では航海士、観光船では機関士を経験し、現在は船長目指して日々勉強中です！  
(いかり ゆうき)

配船オペレーション課 古川 泰司 … 安全第一、笑顔で元気な対応がモットーです。趣味は黒鯛釣り。  
(ふるかわ たいし)

交通船部 運航課 鳥海船長 佐藤 憲明 … この業界に入り22年、これからも安全運航を心掛けて行きます。  
(さとう のりあき)





# ANJIN 私のおすすめ

編集委員

## 『おすすめの一冊を二冊に』

事情があって、ANJIN 編集委員が、このコーナーを担当する羽目になった。  
今回は、最近読んだ中で『おすすめの一冊』ではなく、以下の二冊を「おすすめ」したい。

最初に、ノーベル賞作家でもあり、日本にゆかりのあるイングロカズオの作品『わたしを離さないで(原題: Never Let Me Go)』である。洗練された筆致、キャシー・Hという女性のモノローグで綴られた作品で、ドラマ・映画化された小説だが、映像では表現できないほど美しく、何よりも人の生、そして性を語り尽くしている。ちなみにこの作品は、純文学でありながらも、国内の著名なランキング、『このミステリーがすごい! 2007年版』で10位にランクインする異色の一冊となっている。

次に、今、もっともホットな半導体を題材とした『半導体戦争—世界最重要テクノロジーをめぐる国家間の攻防』である。人類が、爪先ほどしかない半導体に、どれほどの情熱を注いでいるか、今なお、2ナノと言う超微細なスケールで、苛烈な技術開発競争をしているか…、言ってみれば、デジタルの青春ドラマとも取れる内容だ。

前者は、旧作、後者は、今年の新作だが、どちらも海外でも、高く評価されている作品となっている。



①わたしを離さないで (原題: Never Let Me Go)



②半導体戦争 世界最重要テクノロジーをめぐる国家間の攻防

6月入会の  
エンジン全開で  
頑張ります

# 期待の星

本年6月1日付で入会した  
二級水先人1名を紹介します。



二級水先人  
佐々木 薫  
(ささき かおる)

- ①出身は何处ですか?  
福島県
- ②水先人を志望したきっかけは?  
各港でご活躍されている水先人の操船を見て、無くてはならない重要な仕事であり、自分も挑戦したいと思いました。
- ③乗船した主な船種、前職で乗船した主な船でのエピソード等を聞かせて下さい。  
船種はコンテナ船、油タンカーが多く、コロナ始まりの頃によくゴミ袋でお手製防護服をつくっていました。
- ④自分自身のアピールポイントは?  
思考がポジティブなところです。
- ⑤休日の過ごし方や趣味を教えてください。  
休日は運動をするようにしており、ランニングと腹筋ローラーが趣味です。
- ⑥今後の抱負を聞かせてください。  
焦らず安全第一で、まずは水先人として独り立ちできるよう技術を磨いていきたいと思っています。  
ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 人事短信

水先人・元水先人

【受章】 令和5年4月29日、春の叙勲及び褒章に際し、次の方々为荣えある受章の荣に浴されました。おめでとうございます。

### 旭日小綬章

### 黄綬褒章



一級水先人  
松倉 吉孝  
(まつくら よしたか)



一級水先人  
島田 徹之  
(しまだ てつゆき)



一級水先人  
戸摩 辰雄  
(とま たつお)



元一級水先人  
藤 雄一  
(ふじ ゆういち)

#### 【旭日章】

国家又は公共に対し功労があり、その功績の内容に着目し顕著な功績を挙げた方に授与される勲章

#### 【黄綬褒章】

業務に精励し他の人の模範となる方に授与される褒章

【役員人事】 6月2日第1回通常総会において、下記の通り新役員が選任され就任しました。

会 長 / 足立 和也 (再任)	理 事 / 長谷川 弘一 (新任)
副 会 長 / 黒田 富治 (再任)	理 事 / 木坂 知明 (新任)
副 会 長 / 恩田 裕治 (新任)	理 事 / 近森 茂雄 (新任)
副 会 長 / 赤松 健康 (新任)	理 事 / 今津 隼馬 (再任) ~東京海洋大学名誉教授~
理 事 / 佐藤 講二 (再任)	監 事 / 村田 雅文 (新任)
理 事 / 山田 孝之 (再任)	監 事 / 建部 和仁 (再任) ~弁護士~

【訃報】 生前のご厚誼に深く感謝いたしますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

令和5年5月5日 一級水先人 大須賀 祥浩 (平成24年入会:元当会 副会長)  
(おおすか よしひろ)

## 職 員

【職員人事】 4月1日付けを以って次のとおり辞令が発令されました。 ※〔〕内は旧職

《昇任・異動》 業務部教育訓練グループ長(課長) 宮ノ原 弦〔総務部教育訓練グループ係長〕  
※4月1日より教育訓練グループは、総務部から業務部へ移管しました。

《昇 任》 オペレーション部 課長 沼口 弘三	オペレーション部 係長 森 裕康
オペレーション部 課長 網井 大輔	経理部 係長 若畑 雄嗣
オペレーション部 課長 近藤 智則	オペレーション部 主任 佐藤 啓太
経理部 課長 横澤 恵	